

令和5年度（2023年度）第1回上下水道事業運営審議会議事録（要旨）

I 日 時 令和5年（2023年）7月19日（水）午前10時～11時35分

II 場 所 上下水道局別館3階 大会議室

III 出席委員 8名（50音順）

伊藤紘晃委員、川田晃仁委員（副会長）、篠原亮太委員（会長）、津曲明子委員、橋本淳也委員、原育美委員、堀田敏治委員、和田薫委員

IV 事務局（市側）出席者

田中上下水道事業管理者、梶田総務部長、藤本計画整備部長、角田維持管理部長、岩本総務課長、福田計画調整課長、島村水道維持課長、東河川課長、西河川課副課長、坂口水道整備課長、河田水運用課長、吉田水運用課副課長、濱野水運用課水質管理室長、宮邊経営企画課長 他7名

V 傍聴者 0名

VI 次 第

1 開 会

2 新任委員紹介

3 事務局紹介

4 管理者挨拶

5 報告及び意見聴取

(1)（仮称）熊本市下水道浸水対策計画2023（骨子案）について

6 その他

(1) 中心市街地配水管更新事業における広報業務の取組について

(2) 有機フッ素化合物（PFOS・PFOA）の対応について

（参考）地下水涵養指針の見直しについて（熊本県環境立県推進課）

7 閉 会

VII 議事録

●報告及び意見聴取

(1)（仮称）熊本市下水道浸水対策計画2023（骨子案）について	
(仮称)熊本市下水道浸水対策計画2023（骨子案）について河川課から説明	
篠原会長	事務局の説明について、ご意見、ご質問をお願いします。
和田委員	意見になるが、浸水の被害状況に関する動画を見て、浸水対策の取組がよく分かった。上下水道局が雨水バイパス貯留管等を整備していることを知らない人も多いと思うので、教育の一環として、小中学生にも紹介した方が良いと思う。
東河川課長	近年降雨量が増加しており、防災対策のため、市民へ広く周知するよう努めていきたい。
篠原会長	市民へ安全安心を伝えていくため、浸水対策施設の整備等について、広く周知いただきたい。 ひとつ心配なのは、このようなハード面を整備しても、資料29ページ（下通アーケード）にあるように浸水被害が発生しており、まだまだ足りないため、そのことも紹介いただきたい。

原委員	資料5ページに、平成20～29年の10年間における全国の浸水被害額の約4割が内水氾濫によるものであることが示されているが、熊本市ではいかがか。
東河川課長	浸水被害額の比率などのデータはないが、近年の熊本市内の浸水被害は、河川の氾濫によるものではなく、降った雨が排水できずに住宅地に溜まる内水氾濫がほとんどである。
堀田委員	雨水調整池や雨水排水管は、土砂の流入やゴミ等が溜まりそうだが、維持管理の現状は。
東河川課長	雨水調整池については、貯留容量が重要であることから、定期的に状況を確認しながら適切に管理して参りたい。また、雨水排水管については、流れにより直接河川に放出されるため比較的土砂が溜まりにくい、状況を確認しながら適切に管理して参りたい。
篠原会長	雨水排水管の管理は河川課の重要な仕事なので、常時実施することが大事と思う。
原委員	資料6ページの都市化の進展によって、降雨の地中への浸透量が減少し、雨水流出量が1.6倍に増え浸水が発生しやすくなるとのことだが、ハード面のみならず総合的な視野で多面的な対策が必要だと感じた。
東河川課長	なるべく河川への流入量を減少させることが重要だと認識しており、河川流域で降った雨を流域全体で対策を行う流域治水の重要性を国からも示されている。本市としては、宅地への雨水浸透柵の設置による河川への流入量の減少に取り組んでいるところである。
伊藤委員	ハード面の対策については計画に記載されているが、ソフト面について具体的な対策を書くのは現時点で難しいと思うが、各地区の特性を考慮して実施していくことが重要ではないかと思う。 また、ソフト対策の基本は避難であると思うが、自分の住んでいる地域がどれくらいの降雨量に耐えられるか知らないと思うので、危機感を持つべき降雨量レベルを周知すると良いのではないか。
東河川課長	ソフト面の対策の重要性については認識している。雨水管や調整池の想定雨量を超える場合もあるので、(内水)ハザードマップの整備や啓発活動、河川への流入量減少のための取り組みなどを進めていきたい。 また、市民に分かりやすく伝えるため、(内水)ハザードマップに時間雨量ごとの雨の強さや警戒情報等について記載していきたいと思うので、予想降雨量と照らし合わせて避難の目安などに役立てていただきたいと考えている。
篠原会長	公表されているハザードマップの更新はされているか。
東河川課長	更新する予定である。
篠原会長	ハード面の整備に合わせてハザードマップ(浸水深等)も変わってくるため、早めに更新をお願いする。 また、ハードとソフトの両面の対策について、市民に知らせることが大事だと思う。浸水対策などやってることは立派だが、市民が知らないのは問題であり、広報にも力を入れ上下水道局の取組を周知することで、皆さんに心構えを持っていただくことが重要である。
津曲委員	ハード対策工事が完了すれば、浸水被害は減少すると思うが、完成するまでの間はソフト面で対策する必要がある。ハザードマップで危険地域を知らせるだけでなく、例えば、住民の方にはどこから浸水被害が発生し、どのような拡大していくか、また工事によりどれくらい被害が減少したのかを情報提供すれば、より分かりやすいのではないか。
東河川課長	どの場所からどれくらい浸水するのかシミュレーションを実施しているので、対策について地元説明会等で周知し、防災に役立てていきたいと考えている。
篠原会長	どこから浸水するのか市民には分からないので、地元説明会などで避難の目安を伝え

	るなど、きめの細かい住民への説明をお願いします。
和田委員	資料9ページのドロップシャフト（落差処理工）とは、どういうものか。
東河川課長	地上にある水を地下の貯留管へ空気を含まないようにスムーズに送る、水の滑り台のようなもの。
原委員	雨水浸透柵を普及するために補助金を交付していたと思うが、今も継続しているのか。
東河川課長	現在も継続しており、市政だより等で広報している。
伊藤委員	先ほどソフト対策で避難の話があったが、時間雨量で何十ミリも降ったら避難できないので、そういった視点で取り組んでいただきたい。
堀田委員	雨水調整池から排出する際に、電気を作ることはできないのか。
東河川課長	参考にさせていただく。